検 査 案 内

株式会社 シノテスト サイエンス・ラボ

Shino-Test Science Laboratories Inc.

〒252-0331
神奈川県相模原市南区大野台 5-16-41
TEL　:042-718-3027
FAX　:042-753-7995
E-mail　:ssl@ssl-inc.co.jp
URL　:https://www.ssl-inc.co.jp

2025年4月作成　(第18版)

目次

◆ ご利用の手引き ……P．２

ご利用の手引き（免疫学的検査，血液学的検査，生化学的検査）…… P．２
ご利用の手引き（遺伝子関連・染色体検査）…… P．５

◆ 検 査 ……P．７

検査項目（免疫学的検査）…… P．７
検査項目（血液学的検査）…… P．１０
検査項目（生化学的検査）…… P．１１
検査項目（遺伝子関連・染色体検査）…… P．１２
検査項目について…… P．１３

◆ 資 料 ……P．２３

検体採取・取扱い方法…… P．２３
検査方法の概要 …… P．２５
緊急報告検査値範囲 …… P．２６
主要参考文献 …… P．２７
検査依頼（免疫学的検査，血液学的検査，生化学的検査） …… P．３１
検査依頼（遺伝子関連・染色体検査） …… P．３３
検体ラベル …… P．３６
検体容器及び検体送付方法 …… P．３７
報告書の様式（免疫学的検査，血液学的検査，生化学的検査） …… P．３８
報告書の様式（遺伝子関連・染色体検査） …… P．３９

◎ご利用の手引き（免疫学的検査，血液学的検査，生化学的検査）

◆ 1．ご利用の申し込み

ご利用に際しましては、弊社 株式会社シノテスト サイエンス・ラボ（以後ＳＳＬ）までお問い合わせください。

ＳＳＬのインターネット ホームページ（以後ホームページ）でも、ご案内しています（連絡先は、表紙に記載してありますのでご参照ください）。

◆ 2．検査のご依頼

● ＳＳＬ直接検査ご依頼

検査のご依頼に際しましては、ホームページの『オンライン オーダー システム』から必要事項をご入力の上、ご依頼ください。

口頭での依頼には対応しておりませんので、ご了承ください。

ご不明な点等ございましたら、ＳＳＬまでお問合せください（連絡先は、表紙に記載してありますのでご参照ください）。

●大手検査センター経由検査ご依頼

株式会社エスアールエル様、株式会社ビー・エム・エル様、株式会社LSIメディエンス様が取扱っています。

取扱い項目の詳細は、ＳＳＬまでお問合せください。

ご依頼方法は、各社営業所にお問合せください。

◆ 3．検査案内掲載内容

● 検体量

検体量は再検査分を考慮して設定しています。

血清または血漿の場合、必要量の約３倍量を目安に採血してください（検体採取方法は、「検体採取・取扱い方法」をご参照ください）。

● 検体の保存条件

検査項目によっては、検査結果が保存状態の影響を受けるものがありますので、お取扱いに十分ご注意ください。

検査項目別保存条件は、「検査項目」を参照ください。

凍結：必ず指定温度以下の条件にて凍結保存してご提出ください（詳細は「検査項目」をご参照ください）。

室温：必ず室温（２０℃前後）で保存してご提出ください。

冷蔵：必ず冷蔵（４℃前後）で保存してご提出ください。

● 基準値

参考基準値（範囲）または判定基準をご案内しています。詳細は、「検査項目」をご参照ください。

● 所要日数

ＳＳＬ直接検査ご依頼の場合は、原則としては検体がＳＳＬに到着した日を起算日とし、結果をお客様のお手元にお届けするまでの日数を示します（土日、祝日を除く）。詳細は「検査項目」をご参照ください。

再検査の場合は、更に若干の日数を要することがあります。至急検査につきましてはＳＳＬへご相談ください。

諸事情によって、検査日数が延びる場合があります。詳細は弊社ホームページのお知らせでご確認ください。

大手検査センター経由検査ご依頼の場合は、各社営業所にお問合せください。

◆ 4．検体の搬送・受領

● ＳＳＬ直接検査ご依頼

検査依頼後、検体をご送付ください。容器および送付方法については、「検体容器及び検体送付方法」をご参照ください。ＳＳＬにて検体受領後、検体受領案内メールをお送りします（連絡先は表紙に記載してありますのでご参照ください）。

● 大手検査センター経由検査ご依頼

各社営業所にお問い合わせください。

◆ 5．検査結果の報告

● ＳＳＬ直接検査ご依頼

検査結果は、ＳＳＬ所定の検査報告書を郵送します。

様式については、「報告書の様式」を参照ください。

至急報告を希望される場合は、検査依頼時にご相談ください。

口頭による報告は対応しておりませんので、ご了承ください。

● 大手検査センター経由検査ご依頼

各社から所定の検査報告方法に従い、ご報告します。

◆ 6．検体の保管期間

● ＳＳＬ直接検査ご依頼

お預かりいたしました検体は、検査報告日より３週間保管させていただきます。

保管期間を過ぎた検体は、ＳＳＬ【検体管理廃棄手順書】に従い処分させていただきますので、ご了承ください。

● 大手検査センター経由検査ご依頼

各社営業所にお問合せください。

◆ 7．再検査

ＳＳＬ【再検査基準】に基づき再検査をいたします。

検査必要量に満たない検体量でのご依頼の時には、再検査ができない場合があります。

◆ ８．検査料金

● ＳＳＬ直接検査ご依頼

ＳＳＬまでお問合せください。

● 大手検査センター経由検査ご依頼

各社営業所にお問合せください。

◆ ９．料金請求とお支払方法

● ＳＳＬ直接検査ご依頼

ご依頼ごとに請求書を発行させていただきます。

検査報告月末締めの翌月末払いで、請求書に記載の振込先にお支払いください。

振込み手数料はお客様ご負担となります。ご了承ください。

● 大手検査センター経由検査ご依頼

各社営業所にお問合せください。

◆ １０．検査についてのお問い合わせ

● ＳＳＬ直接検査ご依頼

検査内容等のお問い合わせ、ご意見、ご指摘等につきましては、ＳＳＬまでご連絡ください。

【お問い合わせ対応時間】

９：00～12：00，12：50～17：00（土･日･祝日･休業日を除く）

（連絡先は表紙に記載してありますのでご参照ください）

● 大手検査センター経由検査ご依頼

各社営業所にご お問合せください。

◆ １１．プライバシーポリシーについて

弊社ホームページをご確認ください。

◆ １２．個人情報保護に関する方針

弊社ホームページ内のプライバシーポリシーをご確認ください。

◎ご利用の手引き（遺伝子関連・染色体検査）

◆ 1．ご利用の申し込み

ご利用に際しましては、ＳＳＬまでお問い合わせください。

ご利用には、ろ紙尿中CMV検査専用Webサイト『CMV検査管理システム』への登録が必要です。

◆ 2．検査のご依頼

● Webからのご依頼

ろ紙尿中CMV検査専用Webサイト『CMV検査管理システム』から、必要事項をご入力の上、ご依頼ください。

口頭での依頼には対応しておりませんので、ご了承ください。

ご不明な点等ございましたら、ＳＳＬまでお問合せください（連絡先は表紙に記載してありますのでご参照ください）。

● 紙でのご依頼

検査申込書に、専用ろ紙尿採取セット付属の「申込書貼付用」のシールを貼付し、必要事項をご記載の上、検体と合わせて 弊社までご送付ください。

検査申込書は、施設ごとに専用の複写用紙を発行させていただきます。検査申込書の入手方法は、ＳＳＬまでお問合せください。

口頭での依頼には対応しておりませんので、ご了承ください。

◆ 3．検査案内掲載内容

● 検体量

検体量は再検査分を考慮して設定しています（検体採取方法は「検体採取・取扱い方法」をご参照ください）。

● 検体の保存条件

検査結果が保存状態の影響を受けるものがありますので、お取扱いに十分ご注意ください。

保存条件は、「検査項目」を参照ください。

● 基準値

「基準値」をご案内しています。詳細は「検査項目」をご参照ください。

● 所要日数

原則としては検体がＳＳＬに到着した日を起算日とし、結果をお客様のお手元にお届けするまでの日数を示します（土日、祝日を除く）。　詳細は「検査項目」をご参照ください。

諸事情によって、検査日数が延びる場合があります。詳細は弊社ホームページのお知らせでご確認ください。

◆ 4．検体の搬送・受領

● Webからのご依頼

ご依頼後、検体を送付ください。検体容器と検体送付方法について、「検体容器及び検体送付方法」にてご案内しています。ＳＳＬでの検体受領状況は、『CMV検査管理システム』からご確認いただけます。

● 紙でのご依頼

検査申込書と検体を合わせて弊社までご送付ください。検体容器と検体送付方法について、「検体容器及び検体送付方法」でご案内しています。　ＳＳＬにて検体受領後、検体受領案内FAXをお送りします。

◆ 5．検査結果の報告

ご報告の形式は、下記の２つの方法から ご選択いただけます。２つともご選択いただくことも可能です。

口頭による報告は対応しておりませんので、ご了承ください。

- Web でのご報告

検査結果は、『CMV 検査管理システム』よりご確認いただけます。

- 紙でのご報告

検査結果は、ＳＳＬ所定の検査報告書を送付します。

様式については、「報告書の様式」を参照ください。

◆ 6．検体の保管期間

お預かりいたしました検体は、検査報告日より２週間保管させていただきます。

保管期間を過ぎた検体は、ＳＳＬ【検体管理廃棄手順書】に従い処分させていただきますので、ご了承ください。

◆ 7．再検査

ＳＳＬ【再検査基準】に基づき再検査をいたします。

検査必要量に満たない検体量でのご依頼の時には、再検査ができない場合があります。

◆ 8．検査料金

専用のろ紙尿採取セットのご購入代金に含まれております。ご購入方法につきましては、ＳＳＬまでお問合せください。

◆ 9．料金請求とお支払方法

専用のろ紙尿採取セットのご購入代金に含まれておりますので、検査費として別途ご請求をさせていただくことはございません。

◆ １０．検査についてのお問い合わせ

検査内容等のお問い合わせ、ご意見、ご指摘等につきましては、ＳＳＬまでご連絡ください。

【お問い合わせ対応時間】

９：00～12：00，12：50～17：00（土･日･祝日･休業日を除く）

（連絡先は表紙に記載してありますのでご参照ください）

◆ １１．プライバシーポリシーについて

弊社ホームページをご確認ください。

◆ １２．個人情報保護に関する方針

弊社ホームページ内のプライバシーポリシーをご確認ください。

◎検査項目

◆ 免疫学的検査

二次分類	項目ｺｰﾄﾞ	注1 検 査 項 目	検体・検体量	保 存（日数）	所要日数	検査方法	備　考
免疫血清学検査	B0001	衛 抗GM1 ＩｇG抗体	血清 0．1mL	−40℃以下（13ヶ月）	注1 3～15日	ELISA	保険点数 注2 実施料：460点（免疫学的検査判断料144点）
	B0002	衛 抗GQ1ｂ ＩｇG抗体	血清 0．1mL	−40℃以下（13ヶ月）	注1 3～15日	ELISA	保険点数 注3 実施料：460点（免疫学的検査判断料144点）
	B0011	衛 HMGB1	注4 血漿・血清 0．5mL	注5 −80℃以下（18ヶ月）	5～15日	ELISA	研究用
	B0021	衛 抗トリコスポロン・アサヒ抗体	血清 0．15mL	−20℃以下（1年）	注1 3～15日	Antigen-captured ELISA	保険点数 注6 実施料：822点（免疫学的検査判断料144点）
	B0031	衛 ペリオスチン	注7 血清・血漿 0．1mL	注8 −30℃以下（1年）	5～15日	ELISA	研究用
	B0051	衛 SCCA2	注9 血清 0．1mL	−80℃以下（3年）−20℃以下（1ヶ月）	5～15日	ELISA	保険点数 注10 実施料：300点（免疫学的検査判断料144点）

衛 衛生検査所 検査項目

注 1：水から木曜日にかけて検査を行い、金曜日に検査報告書を郵送しています。
月曜日が休日の場合、木から金曜日にかけて検査を行います。
その他、休日の関係で、検査曜日が変わることがありますので、ご注意ください。
検査報告を急ぐ場合は、ご連絡ください。

注２：進行性筋力低下又は深部腱反射低下等のギラン・バレー症候群が疑われる所見が見られ、弊社 ELISA 法キットにて検査を実施した場合において、診断時に１回に限り算定できます。 経過観察時は算定できません。

注３：眼筋麻痺又は小脳性運動失調等のフィッシャー症候群が疑われる所見が見られ、弊社 ELISA 法キットにて検査を実施した場合において、診断時に１回に限り算定できます。 経過観察時は算定できません。

注４：ヒト、ウシ、ブタ、ウサギ、ラット、マウスの血漿・血清（EDTA 血漿、またはクエン酸血漿）や細胞培養上清、脳脊髄液、気管支肺胞洗浄液(BALF)中 のHMGB1 を測定できます。

ヒト、ウシ、ブタ、ウサギ、ラット、マウスの血漿・血清は、1000×g 以上で 15 分または使用する採血管の添付文書の記載に従って遠心してください（遠心が不十分であったり、血餅や血球と触れた状態で長時間保存すると、細胞崩壊などによりHMGB1 濃度が上昇する場合がありますので、ご注意ください)。

【使用を推奨する採血管】
- クエン酸入り採血管
- EDTA 入り採血管
- 血清分離剤なし採血管

【使用により偽高値になる可能性がある採血管】
- 血清分離剤入り採血管
- アプロチニン入り採血管

注５：凍結融解の繰り返しは避けて下さい。

注６：弊社 ELISA 法キットにて、夏型過敏性肺炎の鑑別診断を目的として測定した場合に算定できます。　なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生省特定疾患びまん性肺疾患調査研究班による「過敏性肺炎の診断の手引と診断基準」により、夏型過敏性肺炎が疑われる患者です。

注７：ヒトの血清・血漿や細胞培養上清・硝子体液・涙液・鼻腔洗浄液・肺胞洗浄液中のペリオスチンを測定できます。血清・血漿以外の検体量は弊社までお問合せ下さい。

注８：血清、血漿は -30℃、それ以外の検体は -80℃以下での保存を推奨します。

注９：SCCA2 は、皮膚表皮、唾液、汗、その他の体液等にも存在します。これらが混入あるいは接触した検体、器具等を用いると測定値が高くなる場合があります。検体、器具等を取り扱うときは、常に手袋とマスクを着用してください。

注１０：15 歳以下の小児におけるアトピー性皮膚炎の重症度評価を行うことを目的として、弊社 ELISA 法キットにて血清中のSCCA2 量を測定する場合において、月１回を限度として算定できます。ただし、本検査及び区分番号「D015」血漿蛋白免疫学的検査の「18」TARC を同一月中に併せて行った場合は、主たるもののみ算定できます。

■ 抗GM1ｌｇG抗体・抗GQ1ｂｌｇG抗体

【 判定基準 】

判定	単位：COI
陰性	０．７０ 未満
判定保留	０．７０ 以上　１．００ 未満
陽性	１．００ 以上

■ 抗トリコスポロン・アサヒ抗体

【 判定基準 】

判定	単位：CAI
陰性	０．１５未満
判定保留	０．１５ 以上　０．３０ 未満
陽性	０．３０ 以上

■ SCCA2

【 参考基準範囲 及び 重症度 の目安】

参考基準範囲 及び 重症度	単位：ng/mL
参考基準範囲	１．６ 未満
軽 症	１．６ 以上　２．６ 未満
中等症	２．６ 以上　６．０ 未満
重 症	６．０ 以上

15 歳以下の小児におけるアトピー性皮膚炎の重症度評価の補助

これらの値は対象群の例数、年齢群など種々の条件下で変動する可能性がありますので、アトピー性皮膚炎の診断および重症度の評価は、主として個々の皮疹の観察・評価に基づき、血清 SCCA2 値も一つの目安として担当医師が総合的に判断してください。

◎検査項目

◆ 血液学的検査

二次分類	項目コード	注1 検査項目	検体・検体量	注2 保存（日数）	所要日数	注3 検査方法	備考
血栓・止血関連検査	C0010	衛 プロテインS **比活性** 【総抗原(蛋白量)】【総活性】	注1 血漿 0．5 mL	−20℃以下 凍結 (3週間)	3～15日	【総抗原(蛋白量)】ラテックス凝集比濁法 【総活性】比色法	保険点数 実施料：プロテインS 抗原154点 活性163点 (血液学的検査判断料125点)

衛 衛生検査所 検査項目

注１：検体は、クエン酸血漿を使用します。　また、採血後、速やかに血漿分離を行ってください。

注２：検体は、15～25℃で２時間、2～8℃で８時間　使用できます。
半凍結状態で検体を保存すると、安定期間が短くなりますので、完全に凍結してください。
長期保存する場合は、−40℃以下で凍結保存してください。
凍結した検体は、測定前に5～15分間、37℃の恒温槽に入れて融解してください。
凍結融解は繰返さないでください。

注３：**比活性**は、【総抗原(蛋白量)】及び 【総活性】から 計算により求めます。
比活性 ＝ 【総活性】/【総抗原(蛋白量)】

■ プロテインS比活性

【 参考基準値（比活性） 】

０．８６～１．１８　（健常人）

０．７８未満　（プロテインＳ遺伝子異常保因者（プロテインＳ Ⅱ型異常症患者））

◎検査項目

◆ 生化学的検査

二次分類	項目ｺｰﾄﾞ	検査項目	検体・検体量	保存	所要日数	検査方法	備　考
生化学検査	A0073	研 母乳亜鉛	注1 母乳 1mL	−20℃以下	3～7日	直接法 (5-Br-PAPS)	保険適用外検査です 研究目的等で測定する為、診断には使用できません

研 研究検査部 検査項目

注 1：金属検査用の酸洗浄済みのプラスチック容器をご使用下さい。
ゴム（栓・手袋）に、亜鉛が含まれている製品がありますので、亜鉛汚染にご注意ください。

■ 母乳亜鉛

【 参考基準値 】

母乳の亜鉛値は、産後高値を示し、低下していくことが知られています。

654±205μg/dL（産後　1日～　7日）

394±144μg/dL（産後　8日～ 14日）

176±　90μg/dL（産後15日～ 84日）

76±　25μg/dL（産後85日～201日）　柳澤裕之 他：日本臨床，62増刊号（12）：295-300，2004

◎検査項目

◆ 遺伝子関連・染色体検査

二次分類	項目ｺｰﾄﾞ	注1 検査項目	検体・検体量	保存（日数）	所要日数	検査方法	備　考
病原体核酸検査	D0101	衛 ろ紙尿中CMV検出検査	注1 ろ紙尿（生後３週間以内に採取）	室温	注2 1～7日	PCR法（ﾘｱﾙﾀｲﾑPCR）	保険適用外検査です研究目的等で測定する為、診断には使用できません

衛 衛生検査所 検査項目

注１： 必ず専用ろ紙尿採取セットを用いて検体を採取し、発送してください。
他検体からのキャリーオーバーが発生しやすいため、取り扱いにご注意ください。

注２： 紙でのご報告を選択された場合は、郵送に掛かる日数が追加で必要です。
日本郵便株式会社のサービス内容変更や、返送地域・輸送状況により、検査報告書到着までに時間がかかる場合がございます。

■ ろ紙尿中CMV検出検査

【 基準値 】

陰性

◎　検査項目について

抗GM１ＩｇＧ抗体検査について

ギラン・バレー症候群(Guillain - Barré syndrome、GBS) は、急速に発症する四肢筋力低下と腱反射消失を主徴とする自己免疫性末梢神経疾患で、 本邦の発症頻度は人口 10 万人当たり年間 1.15 人と推定されています。GBS の診断は、Asbury と Cornblath の診断基準が頻用されており、二肢以上における進行性の脱力と腱反射低下等の臨床症状、発症 4 週以内に症状がピークとなることや、髄液・神経伝導検査等の結果により総合的に診断されます。しかし、経過を通じて腱反射が保たれることがあり、注意を要します。また、脱力が 4 週以上経過しても進行する場合は、他の疾患を疑います。

GBS の血清中に各種ガングリオシドと反応する自己抗体が検出されることが明らかにされています。特に IgG 抗 GM1 抗体は GBS の約半数に検出され、最もよく検査されています。抗ガングリオシド抗体は、健常者や他の神経疾患で検出されることはまれで、検出されても低力価です。また、発症早期から血清中に検出されるため、病初期における GBS の補助診断マーカーとして有用です。

血清中 IgG 抗 GM1 抗体の検出は GBS の鑑別診断に有用であり、GBS が疑われた時点で本検査を行うことで早期治療の開始、早期回復、後遺症の軽減が期待できます。

方法

ＥＬＩＳＡ法を用います。

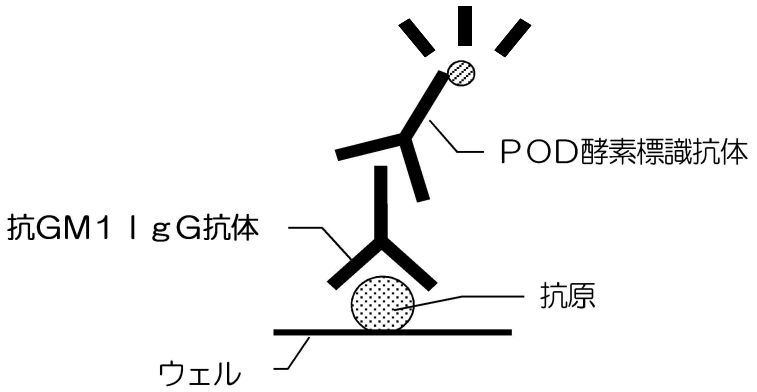
原理

本法は、2 ステップサンドイッチ法を利用した酵素免疫測定法(ELISA, enzyme - linked immunosorbent assay) により、血清中の IgG 抗 GM1 抗体を検出します。

ガングリオシド GM1 を固相化させた抗原固相化プレートのウエルに検体中の抗 GM1 抗体を反応させ、洗浄後ペルオキシダーゼ標識ウサギ抗ヒト IgG ポリクローナル抗体を加えて反応させると、検体中の IgG 抗 GM1 抗体を介した 3 者のサンドイッチ複合体が形成されます。

未反応のペルオキシダーゼ標識ウサギ抗ヒト IgG ポリクローナル抗体を洗浄により除去後、発色基質を加えて酵素反応を行います。

固相に結合した血清中の IgG 抗 GM1 抗体は、ペルオキシダーゼと発色基質との反応に伴う発色量に反映されるため、 これを測定することにより IgG 抗 GM1 抗体の検出を行うことができます。



抗GQ１ｂＩｇG抗体検査について

フィッシャー症候群(Fisher syndrome, FS) は、外眼筋麻痺、運動失調、腱反射の低下ないし消失を主徴とする疾患です。多くは呼吸器系(上気道炎等) あるいは消化器系(胃腸炎等)等の先行感染症状に引き続いて発症し、単相性の経過をとり、 髄液検査において蛋白細胞解離がみられる等の特徴があります。ギラン・バレー症候群(Guillain - Barré syndrome, GBS) と共通する特徴を有することから、同症候群の亜型と考えられています。FS は、外眼筋麻痺や運動失調等の臨床症状、発症４ 週以内に症状がピークとなることや、髄液検査等の結果より総合的に診断されます。

FS では GBS と同様にガングリオシドと反応する自己抗体が産生され、7～9 割の患者血清中に IgG 抗 GQ1b 抗体が検出されることが報告されています。抗ガングリオシド抗体は、健常者や他の神経疾患で検出されることはまれで、検出されても低力価です。IgG 抗 GQ1b 抗体は本症例に特異性が高く、また発症早期から血清中に検出されるため、診断マーカーとして非常に有用です。

血清中 IgG 抗 GG1b 抗体の検出は FS の鑑別診断に有用であり、FS が疑われた時点で本検査を行うことで早期治療の開始、早期回復、後遺症の軽減が期待できます。

方法

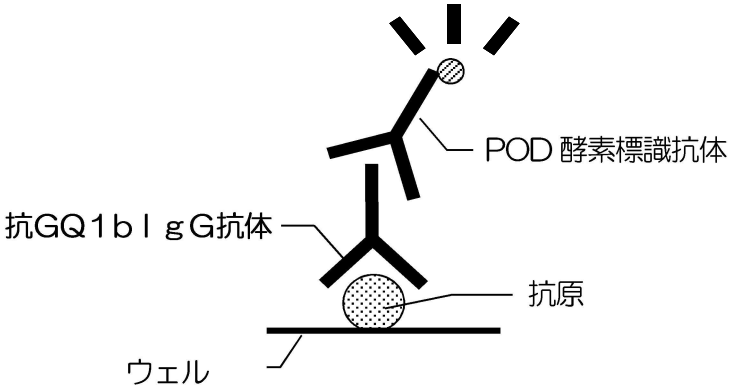
ＥＬＩＳＡ法を用います。

原理

本法は、２ ステップサンドイッチ法を利用した酵素免疫測定法(ELISA, enzyme - linked immunosorbent assay) により、血清中の IgG 抗 GQ1b 抗体を検出します。

ガングリオシド GQ1b を固相化させた抗原固相化プレートのウエルに検体中の抗 GQ1b 抗体を反応させ、洗浄後ペルオキシダーゼ標識ウサギ抗ヒトIgGポリクローナル抗体を加えて反応させると、検体中のIgG 抗GQ1b 抗体を介した３者のサンドイッチ複合体が形成されます。

未反応のペルオキシダーゼ標識ウサギ抗ヒト IgG ポリクローナル抗体を洗浄により除去後、発色基質を加えて酵素反応を行います。固相に結合した血清中の IgG 抗 GQ1b 抗体は、 ペルオキシダーゼと発色基質との反応に伴う発色量に反映されるため、 これを測定することにより IgG 抗 GQ1b 抗体の検出を行うことができます。



HMGＢ１検査について

High mobility group box 1（HMGＢ1）は、元来、非ヒストン核蛋白の主要成分であり、転写調節因子として知られている分子量約３０ｋＤａのタンパク質です。

近年このHMGＢ１は､敗血症性ショック時の晩期に発現する炎症性メディエーターとして注目されています。

また局所的な疾患では、関節リュウマチや炎症性腸疾患などでもHMGＢ１濃度が上昇することが報告されています。

本検査では、類似蛋白質であるHMGＢ２を測り込むことなく、HMGＢ１のみを測定します。

方法

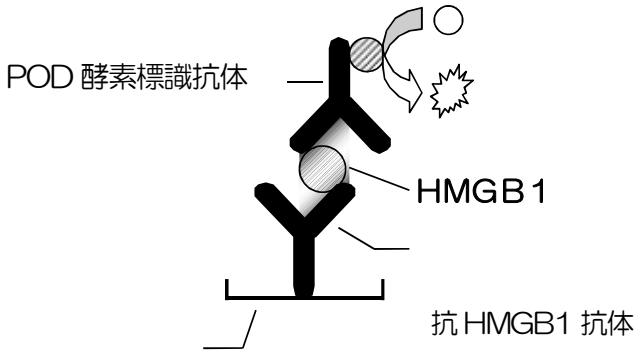
ＥＬＩＳＡ法を用います。

原理

本法は、サンドイッチ酵素免疫測定法（ＥＬＩＳＡ；enzyme-linked immunosorbent assay）によるHMGＢ１定量測定方法です。

抗HMGＢ１ポリクローナル抗体を結合させた固相ウェルに希釈検体を加え、検体中のHMGＢ１を抗体と特異的に結合させます。次にペルオキシダーゼ(ＰOD)標識抗体を加えて、抗原抗体複合体を形成させます。

この複合体に発色剤を加え反応後、反応を停止させ、450nm における吸光度を測定します。



ウェル

抗トリコスポロン・アサヒ抗体検査について

夏型過敏性肺炎は、我が国の過敏性肺炎の 75%を占め、かつ近年増加している重要なアレルギー性疾患ですが、その原因真菌として、トリコスポロン・アサヒ（*Trichosporon asahii* ）が最も重要と報告されています。

抗トリコスポロン・アサヒ抗体の検出は、原因抗原がトリコスポロン・アサヒであることを示す、夏型過敏性肺炎の診断に有用な検査法です。

本検査では、類似菌種であるクリプトコッカス・ネオフォルマンス（*Cryptococcus neoformans*）やトリコスポロン・ムコイデス（*Trichosporon mucoides*）に対する交叉反応を抑え、抗トリコスポロン・アサヒ抗体への特異性を高めています。

方法

Ａｎｔｉｇｅｎ－ｃａｐｔｕｒｅｄ ＥＬＩＳＡ法を用います。

原理

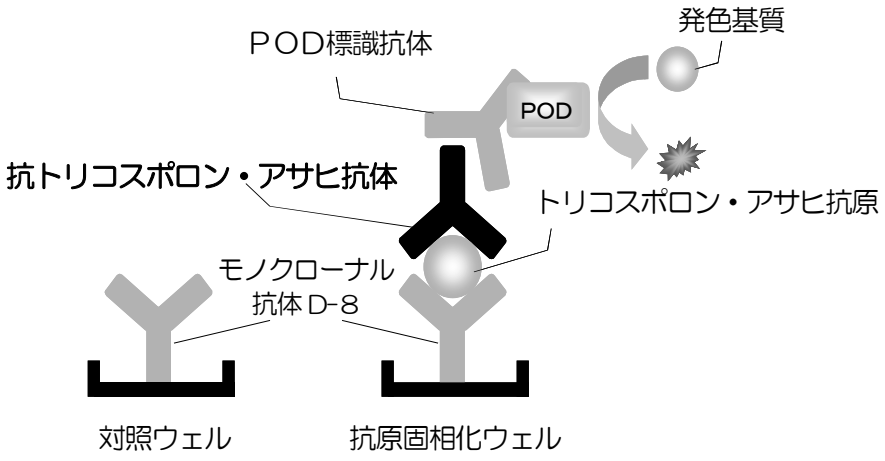
本法は、Antigen-captured ＥＬＩＳＡ法（ＥＬＩＳＡ；enzyme-linked immunosorbent assay）により、ヒト血清中の抗トリコスポロン・アサヒ抗体を検出します。

マイクロプレートに マウス抗トリコスポロン・アサヒ-モノクローナル抗体 D-8（抗トリコスポロン・アサヒ抗体D-8）のみ結合させたウェル（対照ウェル）と、抗トリコスポロン・アサヒ抗体 D-8を介してトリコスポロン・アサヒ抗原を結合させたウェル（抗原固相化ウェル）、各1ウェルを一組として操作します。

検体中の 抗トリコスポロン・アサヒ抗体を トリコスポロン・アサヒ抗原と反応させ、ペルオキシダーゼ標識ヤギ抗ヒトＩｇG-ポリクローナル抗体（POD標識抗ヒトＩｇG抗体）を加えて反応させると、検体中の抗トリコスポロン・アサヒ抗体を介した三者のサンドイッチ複合体が形成されます。未反応のPOD標識抗ヒトＩｇG抗体を除去後、発色基質（過酸化水素、4－アミノアンチピリン、フェノール）を加えて酵素反応を行います。

トリコスポロン・アサヒ抗原に結合した検体中の 抗トリコスポロン・アサヒ抗体はペルオキシダーゼと発色基質との反応に伴う発色量が反映されるため、これを測定することにより、抗トリコスポロン・アサヒ抗体の検出を行います。

本法では、検体と同時に測定する陽性コントロールを基準に 各検体の補正吸光度（Corrected Absorbance Index、ＣＡＩ）を算出し、ＣＡＩより判定を行います。



ペリオスチン検査について

ペリオスチン(Periostin) ：別名 Osteoblast-specific factor 2 (OSF-2)は、ファシクリンファミリーに属する分子量約９万の細胞外マトリックスタンパク質です。その構造は、末端からシステイン残基に富む EMI ドメインに始まり、４つの fasciclin Ⅰ (FAS1)ドメインがその後に続きます。EMI ドメインには、Ⅰ型コラーゲンやフィブロネクチンが、FAS1 ドメインには、テネイシン C が結合することが報告されています。

ペリオスチンは Th2 型サイトカインである IL-4/IL-13 によってその発現が誘導されます。このことから Th2 型アレルギー状態の指標となります。さらに種々の線維化を伴う疾患でも発現が上昇していることが明らかにされました。

個々の疾患では、アトピー性皮膚炎、気管支喘息、全身性強皮症、胆管細胞癌、糖尿病性網膜症などで血中ペリオスチン濃度が上昇することが報告されています。さらに近年、ペリオスチンは、喘息患者に対する分子標的薬の治療効果予測因子として注目されています。

本検査では、類似蛋白質であるβig-h3には反応しません。

方法

ＥＬＩＳＡ法を用います。

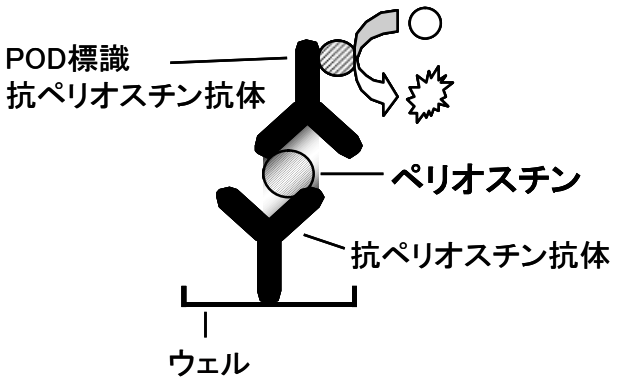
原理

本法は、サンドイッチ法を利用した酵素免疫測定法(ELISA；enzyme-linked immunosorbent assay）によるペリオスチン定量測定試薬です。

抗ペリオスチンモノクローナル抗体を結合させた固相ウェルに検体を加え、検体中のペリオスチンを抗体と特異的に結合させます。

次に標識した抗ペリオスチンモノクローナル抗体を加え、抗原抗体複合体を形成させます。　この複合体に発色剤を加えて発色させます。

発色停止後、450 nm の吸光度を測定します。



SCCA2 検査について

SCCA（squamous cell carcinoma antigen）は、serpin スーパーファミリーに属するセリンプロテアーゼインヒビターであり、主に上皮細胞から産生される分子量 約 45 kDa のタンパク質です。

SCCA には SCCA1（SERPIN B3）と SCCA2（SERPIN B4）というアイソフォームが存在し、アミノ酸レベルでの相同性は 91%と非常に高いものの、異なる遺伝子座から転写される独立した遺伝子産物です。

アレルギー性炎症の中心は Th2 型免疫反応であり、Th2 型サイトカインの一つであるインターロイキン 13（IL-13）が重要な役割を果たしていることが知られています。SCCA2 は、アレルギー反応において中心的に働くサイトカインである IL-4 及び IL-13 で気道上皮細胞を刺激した際に発現が上昇する分子の一つとして同定されました。

小児アトピー性皮膚炎患者における血清 SCCA2 値は、既存の血液検査に比べても有意にその重症度に応じて上昇していることが報告されています。 アトピー性皮膚炎の治療においては、その重症度に応じて抗炎症薬を適切に選択・使用することが重要です。 血清 SCCA2 は、小児アトピー性皮膚炎の重症度の指標として有用なマーカーとなり得ることが示唆されました。

方法

ＥＬＩＳＡ法を用います。

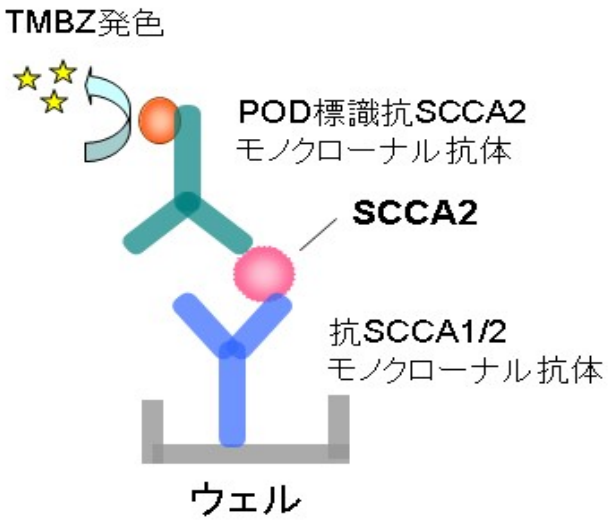
原理

本法は、酵素免疫測定法（ELISA：enzyme-linkedimmunosorbent assay）により、血清中の SCCA2 を測定します。

抗 SCCA 抗体を固相化させた 96穴マイクロプレートウェル（固相）に検体中の SCCA2 を反応させ、洗浄後、POD 標識抗 SCCA2 抗体を加えて反応させると、検体中の SCCA2 を介した免疫複合体が形成されます。

未反応のPOD 標識抗 SCCA2 抗体を洗浄により除去後、発色基質を加えて酵素反応を行います。

固相の抗体に結合した検体中の SCCA2 濃度は、POD と発色基質との反応に伴う発色量に反映されるため、これを測定することにより SCCA2 濃度を求めます。



プロテインＳ 比活性 検査について

【プロテインＳ比活性】

血液凝固制御因子であるプロテインＳの異常/欠乏は、静脈血栓塞栓症（venous thromboembolism, VTE）の危険因子であり、日本人の血栓性素因であることが明らかになりました。日本人には「プロテインＳ徳島」というプロテインＳの機能低下を伴う遺伝子変異が 1.3%～1.8% に存在し、その保因者は VTE を発症する危険性が高くなります（Odds 比：3.7～8.6）。これまで、「プロテインＳ徳島」などのプロテイン Ｓ 機能異常を正確に診断するには、遺伝子検査に頼らざるを得ず、時間と手間が掛かり煩雑でした。

プロテインＳ比活性検査は、自動分析装置で総プロテインＳ活性と蛋白量を測定し、蛋白量あたりの活性（総活性 / 総蛋白量）を算出してプロテインＳ機能低下を判定します。したがって、プロテインＳ比活性検査は、これまでより迅速かつ簡便にプロテインＳ機能異常を検出することができるので、VTE の予防に大いに役立つものと思われます。

計算方法

総プロテインＳ蛋白量に対する総活性の比率（総活性 / 総蛋白量）をプロテインＳ比活性としました。

【総プロテインＳ抗原(蛋白量)】

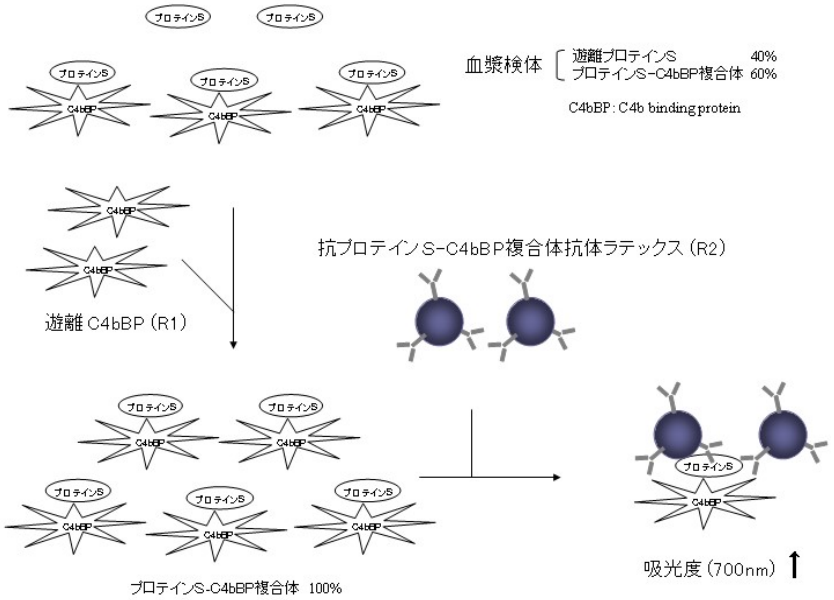
方法

ラテックス凝集比濁法

原理

プロテインＳ は、生体中では C4b binding protein (C4bBP) と結合した C4bBP-プロテインＳ 複合体（複合体型プロテインＳ）と遊離プロテインＳ が存在しています。

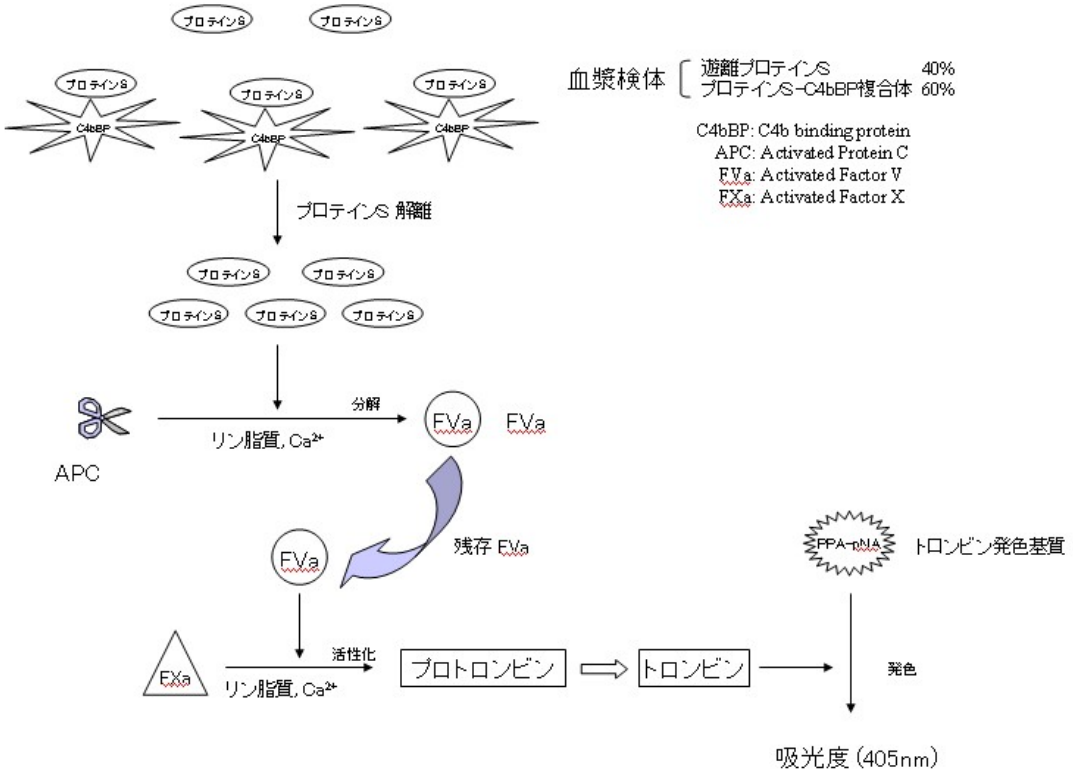
第一反応で検体中の遊離プロテインＳ に C4bBP を結合させ、全てのプロテインＳ を複合体型プロテインＳにします。第二反応で複合体型プロテインＳ は、抗ヒトプロテインＳ マウスモノクローナル抗体感作ラテックスと反応し、凝集を生じます。この凝集を吸光度変化（濁度変化量）としてとらえることにより、検体中の総プロテインＳ 抗原(蛋白量)を測定します。



【総プロテインＳ活性】

方法
　比色法

原理
　第一反応で検体（プロテインＳ）、活性化プロテイン C および活性化第Ⅴ因子(FVa)を反応させ FVa を分解します。第二反応は、第一反応での残存 FVa、活性化第Ⅹ因、プロトロンビンおよびトロンビンの発色合成基質（D-フェニルアラニル-L-ピペコリル-L-アルギニル-p-ニトロアニリド・塩酸塩、PPA-pNA）を反応させ、生成するトロンビンによりトロンビン基質を発色させます。第一反応での残存 FVa は、総プロテインＳ活性に依存するため、PPA-pNA の発色は総プロテインＳ活性を反映します。したがって、PPA-pNA の発色による吸光度変化をとらえることにより、検体中の総プロテインＳ 活性を測定します。



母乳亜鉛（Zn）検査について

亜鉛は生体内に広く分布する必須微量金属の一つであり、多くの金属酵素の重要な構成成分として存在します。そのため、亜鉛欠乏の検出は疾患の治療に結びつく重要な情報の一つとなります。

亜鉛欠乏は、摂取量の低下、慢性的な下痢などによる吸収阻害、亜鉛にキレート能をもつ薬剤の投与、高度の発汗、肝障害などによる低分子リガンド増加などで起こり、その症状としては、味覚・臭覚障害、食欲低下、皮膚炎、創傷治癒遅延などが知られています。

また近年、低亜鉛母乳による乳児の亜鉛欠乏症が報告されています。母体の血中亜鉛値は正常でありながら、母乳中亜鉛値が低値を示すことがあります。生後 2～3 ヶ月の乳児で発症することが多いと言われています。乳児への亜鉛補充は奏効を示しますが、母親への亜鉛補充では母乳中亜鉛値の上昇が認められないとの報告があります。

方法

直接法（5- Br -PAPS）を用います。

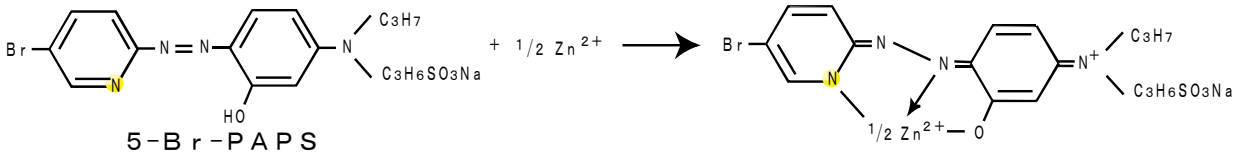
原理

本法は、直接法（5- Br -PAPS）により、検体中の亜鉛（Zn^{2+}）を定量します。

検体中の亜鉛（Zn^{2+}）は、アルブミン、α2-マクログロブリンに主に結合しています。

Zn^{2+}は 2-（5-ブロモ-2-ピリジルアゾ）-5-（N-プロピル-N-スルホプロピルアミノ）フェノールナトリウム（5- Br -PAPS）とキレート化合物を作り発色します。

この色素を 比色して 検体中の 亜鉛値を求めます。



5-Br-PAPS

ろ紙尿中 CMV 検出検査について

サイトメガロウイルス(CMV)は、主に幼少期に不顕性感染の形で感染し、その後は生涯にわたり潜伏感染しています。しかし、胎児のうちに CMV 感染を起こしてしまうと、低出生体重・肝機能異常・小頭症のほか多様な症状を呈し、高率に神経学的後遺症を残すとされています。

また、出生時は無症候性であっても、遅発性に難聴などの症状を発することが有ります。

方法

PCR 法(リアルタイム PCR)を用います。

原理

新生児のろ紙尿中に含まれる CMV-DNA を PCR 法にて増幅させます。

注意点

本検査は研究目的であり、診断には使用できません。

陽性になった場合は、すぐに確定検査を実施いただく必要がございます。

確定検査は、出生後３週間以内の液体尿で検査を行う必要があります。
これは、尿中のウイルス量が血中の 100～1000 倍多く存在し、また、出生後の後天的な感染ではウイルスが尿に出現するまで３週間程度を要するためです。

◎　検体採取・取扱い方法

◆ 1．血液

● 採血時間

一般的に早朝安静空腹時を原則としています。

● 検体採取

【血清】 必要量の３倍量を目安に血液を採取してください.
特に指定が無い場合、採血後室温に静置させ凝固を確認後、遠心分離してください。
遠心分離後、上清を容器に移し、指定の保存条件にてご提出ください。
保存条件は検査項目によって異なります。「検査項目」の保存条件をご参考ください。

【血漿】 必要量の３倍量を目安に血液を採取してください。
特に指定が無い場合、所定の抗凝固剤入り採血容器にて採血後速やかに転倒混和させ、間遠心分離してください。
遠心分離後、上清を容器に移し、指定の保存条件にてご提出ください。
保存条件は検査項目によって異なります。「検査項目」の保存条件をご参考ください。

※　注意事項

【真空採血にあたり】

容器の規定採血量より少ない場合、容器内部が陰圧状態のままとなり溶血を引き起こす原因となります。必ず指定容量に採取してください。

【シリンジ採血にあたり】

シリンジから注射針を外し、採血管の側面に沿わせてゆっくりと注入してください。

【溶血を避けるにあたり】

採血時に無理な圧力や泡立ちを避けてください。
十分に乾燥した採血容器を用いてください。
物理的刺激（極度の高温や低温、振動など）を避けてください。

◆ 2．母乳

● 検体採取

亜鉛汚染されていない容器へ直接母乳を採取して下さい。搾乳器は使わないでください。
ゴム手袋には、亜鉛が含まれる製品がありますので使用しないで下さい。
保存条件は、「検査項目」の保存条件をご参考ください。

◆ 3．ろ紙尿

● 検体採取

必ず専用のろ紙尿採取セットを用いて、検体採取をお願いいたします。
ろ紙尿採取セットの詳しいご使用方法につきましては、セット付属の使用説明書をご参照ください。

注意点
他検体からのキャリーオーバーが発生しやすいため、取り扱いにご注意ください。
ろ紙尿採取セット付属の乾燥ケースで、きちんと採尿シートを乾燥させたのち、ご送付ください。
採尿シート中には、ろ紙が複数枚封入されております。
便が付着したろ紙は 検査に使用できません。尿の吸収が確認できたろ紙で、なおかつ便の不着のないろ紙が、採尿シート中に３つ以上存在することを確認した上で、弊社までご送付ください。

◎　検査方法の概要

方　法　名	原　　理
酵素免疫測定法（ＥＬＩＳＡ）： Enzyme−linked immunosorbent assay	固相化した抗体（抗原）に対して抗原（抗体）を反応させた後、酵素標識した抗体を二次反応させ、発色基質を加えて酵素活性を測定する方法
Ａｎｔｉｇｅｎ−ｃａｐｔｕｒｅｄ ＥＬＩＳＡ法： Antigen-captured enzyme-linked immunosorbent assay	抗体を介して特異的な抗原を固相化させることを特徴とするELISA法 固相化した抗原に対して抗体を反応させた後、酵素標識した抗体を二次反応させ、発色基質を加えて酵素活性を測定する方法
ラテックス凝集比濁法	ラテックスに感作した抗体（抗原）と検体中の抗原（抗体）を反応させ、凝集による吸光度変化から目的物質を測定する方法
比色法	検体中の測定物質を着色物質に変化させ、可視光の吸光度変化により測定する方法
直接法	除蛋白することなく、検体中の測定物質を化学反応により発色させ、比色定量する方法
ＰＣＲ法： Polymerase Chain Reaction	DNA ポリメラーゼの働きを利用し、DNA サンプルの特定領域を増幅させる反応 高熱をかけ2本鎖DNAを1本鎖の状態に解離させる。そして温度を50-60℃にすることでプライマーを相補配列部位に結合させ、その後 DNAポリメラーゼを働かせることでプライマーからDNAが伸長する。これを繰り返すことでDNAの標的領域が増幅する

◎　緊急報告検査値範囲

免疫学的検査

現在のところ、緊急報告検査値範囲を設定している検査項目はありません。

血液学的検査

現在のところ、緊急報告検査値範囲を設定している検査項目はありません。

生化学的検査

現在のところ、緊急報告検査値範囲を設定している検査項目はありません。

遺伝子関連・染色体検査

現在のところ、緊急報告検査値範囲を設定している検査項目はありません。

◎　主要参考文献

検査項目	参考文献

B0001　抗 GM1IgG 抗体

- 「ギラン・バレー症候群, フィッシャー症候群診療ガイドライン」作成委員会：日本神経学会. ギラン・バレー症候群, フィッシャー症候群診療ガイドライン 2013. 南江堂, 2-159 , 2013
- 斉藤豊和, 他：ギラン・バレー症候群の全国疫学調査第一次アンケート調査の結果報告. 厚生省特定疾患免疫性神経疾患調査研究分科会 平成 10 年度研究報告書, 59-60, 1999
- Asbury AK , et al：Assessment of current diagnostic criteria for Guillain-Barré syndrome. *Ann Neurol*, 27 Suppl：S21-S24 , 1990
- Yuki N , et al：Guillain-Barré syndrome . *N Engl J Med*, 336：2294-2304 , 2012
- Nishimoto Y , et al：Usefulness of anti-GQ1b IgG antibody testing in Fisher syndrome compared with cerebrospinal fluid examination. *J Neuroimmunol*, 148(1-2)：200-205 , 2004
- 秋山真弓, 他：抗ガングリオシド抗体検出キットの開発- Guillain-Barré 症候群,Fisher 症候群における臨床的有用性の検討-. 脳と神経, 56(6)：477-481 , 2006
- 内堀歩, 他：Guillain-Barré 症候群と関連疾患の病因と病態 - 抗ガングリオシド抗体を中心に-. 脳と神経,57(2)：97-106 , 2005
- 髙嶋航,他：抗ガングリオシド抗体検出キットの改良. 臨床病理, 66(11)：1176-1181 , 2018

B0002　抗 GQ1bIgG 抗体

- 「ギラン・バレー症候群, フィッシャー症候群診療ガイドライン」作成委員会：日本神経学会. ギラン・バレー症候群, フィッシャー症候群診療ガイドライン 2013. 南江堂, 162-189,2013
- Odaka M, et al：Anti-GQ1b IgG antibody syndrome：clinical and immuneological range. *J Neurol Neurosurg Psychiatry*, 70：50-55, 2001
- Chiba A, et al：Serum anti-GQ1b IgG antibody is associated with ophthalmoplegia in Miller Fisher syndrome and Guillain-Barré syndrome：Clinical and immunohistochemical studies. *Neurology*, 43：1911-1917 , 1993
- 古賀道明, 他 ：Guillain-Barré 症候群. 領域別症候群シリーズ, 27(Pt 2)：464-469 , 1999
- Nishimoto Y , et al：Usefulness of anti-GQ1b IgG antibody testing in Fisher syndrome compared with cerebrospinal fluid examination. *J Neuroimmunol*, 148(1-2)：200-205 , 2004
- 秋山真弓, 他：抗ガングリオシド抗体検出キットの開発- Guillain-Barré 症候群,Fisher 症候群における臨床的有用性の検討-. 脳と神経, 56(6)：477-481 , 2006
- 内堀歩, 他：Guillain-Barré 症候群と関連疾患の病因と病態 - 抗ガングリオシド抗体を中心に-. 脳と神経,57(2)：97-106 , 2005
- 髙嶋航,他：抗ガングリオシド抗体検出キットの改良. 臨床病理, 66(11)：1176-1181 , 2018

◎　主要参考文献

検査項目	参考文献

B0011　HMGB１

- Wang H, et al: HMG-1 as a late mediator of endotoxin lethality in mice. *Science*, 285:248-251, 1999
- Yamada S, et al : igh mobility group protein 1 (HMGB1) quantified by ELISA with a monoclonal antibody that does not cross-react with HMGB2. *Clin Chem* , 49 : 1535-1537, 2003
- Yamada S, et al : New high mobility group box 1 assay system. *Clin Chim Acta*, 372:173-178 , 2006
- Yamada, et al : HMGB1, a novel inflammatory cytokine. *Clin Chim Acta*, 375 : 36-42, 2007

B0021　抗トリコスポロン・アサヒ抗体

- Mizobe T, et al : Analysis of serotype-specific antibodies to *Trichosporon cutaneum* types Ⅰ and Ⅱ in patients with summer-type hyper- sensitivity pneumonitis with monoclonal antibodies to serotype-related polysaccharide antigens. *J Clin Microbiol*, 31 (7) : 1949-1951, 1993
- 安藤正幸：過敏性肺炎の病態と治療．日本内科学会雑誌, 89 (9) :1717-1727, 2000
- NishiuraY, et al : Assignment and serotyping of *Trichosporon* species : the causative agents of summer-type hypersensitivty pneumonitis. *J Med Vet Mycol*, 35 (1) : 45-52, 1997
- Mizobe T, et al : Purifioation and characterization of the serotype-specific polysaccharide antigen of *Trichosporon cutaneum* serotype Ⅱ : a disease-related antigen of Japanese summer-type hypersensitivity pneumonitis. *Clin Exp Allergy*, 25 (3) : 265-272, 1995
- 新井徹, 他：さまざまな過敏性肺炎 1）夏型過敏性肺炎．呼吸器科, 13 (5) : 404-411, 2008
- 三宅修司, 他：マウス抗 *Trichosporon asahii* モノクローナル抗体D-8を用いた抗原接合ELISA法による夏型過敏性肺炎診断の有用性について．日呼吸会誌, 39 (1) : 7-11, 2001
- 溝部孝則, 他：夏型過敏性肺炎のEnzyme-Linked Immunosorbent Assayによる血清診断の有効性の検討. アレルギー, 51 (1) : 20-23, 2002

B0031　ペリオスチン

- Takeshita S, et al : Osteoblast-specific factor 2 : cloning of a putative bone adhesion protein with homology with the insect protein fasciclin Ⅰ. *Biochem J*, 294 : 271-278, 1993
- Kii I, et al : Incorporation of tenascin-C into the extracellular matrix by periostin underlies an extracellular meshwork architecture. *J Biol Chem*, 285 : 2028-2039, 2010
- Takayama G, et al : Periostin : a novel component of subepithelial fibrosis of bronchial asthma downstream of IL-4 and IL-13 signals. *J Allergy Clin Immunol*, 118 : 98-104, 2006
- 太田昭一郎, 他：ペリオスチン：臨床応用の可能性．アレルギー, 62 : 652-664, 2013
- Okamoto M, et al : Periostin, a matrix protein, is a novel biomarker for idiopathic interstitial pneumonias. *Eur Respir J*, 37 : 1119-1127, 2011
- Masuoka M, et al : Periostin promotes chronic allergic inflammation in response to Th2 cytokines. *J Clin Invest* , 122 : 2590-2600, 2012

◎　主要参考文献

検査項目	参考文献

B0031　ペリオスチン

- Masuoka M, et al:Periostin promotes chronic allergic inflammation in response to Th2 cytokines. *J Clin Invest* , 122：2590-2600 , 2012
- Kanemitsu Y , et al : Increased periostin associates with greater airflow limitation in patients receiving inhaled corticosteroids. *J Allergy Clin Immunol*, 132：305-312 , 2013
- Yamaguchi Y, et al : Serum periostin levels are correlated with progressive skin sclerosis in patients with systemic sclerosis. *Br J Dermatol*, 168：717-725 , 2013
- Fujimoto K , et al : Periostin, a matrix protein, has potential as a novel serodiagnostic marker for cholangiocarcinoma. *Oncol Rep*, 25： 1211-1216 , 2011
- Yoshida S , et al : Increased expression of periostin in vitreous and fibrov obtained from patients with proliferative diabetic retinopathy. *Invest Opht* 5670-5678 , 2011

主要参考文献

- 太田昭一郎, 他：重症喘息患者治療におけるバイオマーカー（ペリオスチン）. *Respiratory Trends* , 5：12-15 , 2015
- Corren J , et al : Lebrikizumab treatment in adults with asthma *N Engl J Med*, 365：1088-1098 , 2011

B0051　SCCA2

- Yuyama N. , et al：*Cytokine* , 19：287-296 , 2002
- Ohta S. , et al：*Ann. Clin. Biochem.* , 49：277-284 , 2012
- Nagao M. , et al：*J. Allergy Clin. Immunol* . , 141：1934-1936 , 2018
- 藤澤隆夫：アレルギー , 67：981-989 , 2018

C0010　プロテインS 比活性（総プロテインS 抗原(蛋白量)・総プロテインS 活性）

- 鈴木宏治, 他：臨床検査 , 55（4）：340-346 , 2011
- 濱﨑直孝, 他：臨床検査 , 55（4）：357-365 , 2011
- 林辰弥, 他：臨床検査 , 55（4）：373-377 , 2011
- 金秀日, 他：臨床検査 , 55（4）：393-398 , 2011
- Tsuda T, et al : New quantitative total protein S-assay system for diagnosing protein S type Ⅱ deficiency : clinical application of the screening system for protein S type Ⅱ deficiency. *Blood Coagul Fibrinolysis* , 23：56-63 , 2012
- 津田博子, 他：アジア人特有の血栓性素因：プロテインS 異常症. 日本血栓止血学会誌 , 23：379-382 , 2012
- Hamasaki N, et al : Activated protein C anticoagulant system dysfunction and thrombophilia in Asia. *Ann Lab Med* , 33：8-13 , 2013

◎　主要参考文献

検査項目	参考文献

A0073　母乳亜鉛（Ｚｎ）

- Makino，et al：A highly sensitive colorimetric determination of serum zinc using water-soluble pyridylazo dye．*Clin Chim Acta*，120：127-135，1982 金井正光，他：臨床検査法提要 改訂版，第 32 版：584-585，2005

D0101　ろ紙尿中 CMV 検出検査

- 厚生労働科学班研究 母子感染の実態把握及び検査・治療に関する研究班（平成 25 年度～27 年度）：サイトメガロウイルス妊娠管理マニュアル. 日産婦誌 66（12 付録号）：1-15，2014
- Hamprecht K.，et al.：Lancet. 357 (9255)，513-518,2001

◎　検査依頼（免疫学的検査，血液学的検査，生化学的検査）

◆　オンラインオーダーシステム

検査・見積依頼

＊は必須項目です

ご依頼日
2024-05-22

ご依頼内容＊
お見積り　検査依頼　お見積り＋検査依頼

対象項目＊
- SCCA2
- 母乳亜鉛
- 抗ガングリオシド抗体
- 抗トリコスポロン・アサヒ抗体
- HMGB1
- ペリオスチン
- プロテインS比活性

ご希望の依頼内容および対象項目をクリックしてください

抗ガングリオシド抗体を選択すると「GM1，GQ1b」のボタンが出現します
いずれかもしくは両方を選択してください

検体情報シート添付
参照 ...
最大10MB

検体情報シートはこちらからダウンロードしてください。

ご依頼者さま情報

検体情報については「検体情報シート」をダウンロードし、必要な情報を入力後、保存してください
「参照」をクリックし、入力，保存した「検体情報シート」を選択し、添付してください

施設名＊

依頼者＊

依頼者所属先

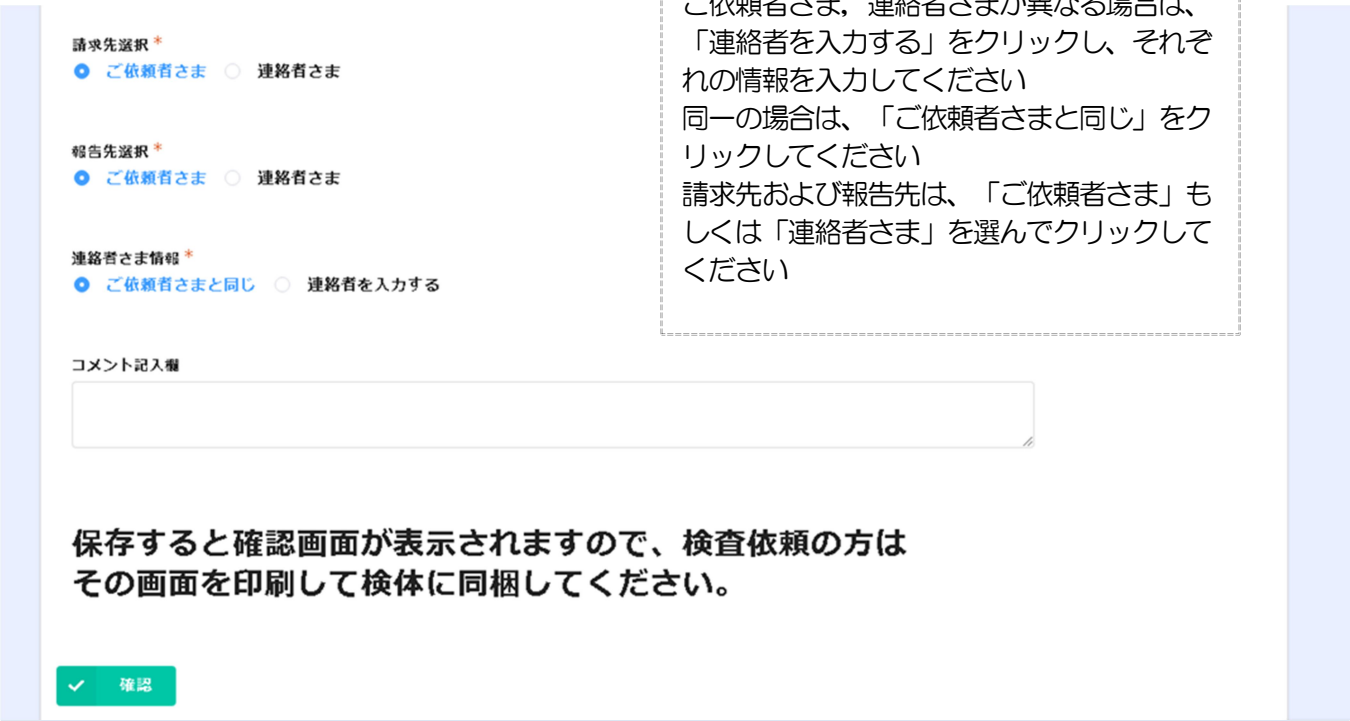
〒郵便番号（依頼施設）＊

依頼施設住所＊

依頼者電話番号＊

依頼者メールアドレス＊

◆ オンラインオーダーシステム（続き）



ご依頼者さま，連絡者さまが異なる場合は、「連絡者を入力する」をクリックし、それぞれの情報を入力してください
同一の場合は、「ご依頼者さまと同じ」をクリックしてください
請求先および報告先は、「ご依頼者さま」もしくは「連絡者さま」を選んでクリックしてください

◎　検査依頼（遺伝子関連・染色体検査）

◆　CMV検査・管理システム　（Web からのご依頼）

CMV 検査・管理システムにログイン後、「検体登録」をクリックし、必要な情報を入力して　ご依頼ください

◆ CMV検査・管理システム （検体登録画面）

登録コードは入力必須項目です
以降の項目はお客様の責任において入力してください

◆ 検査申込書　（紙でのご依頼）

[redacted]

登録コードの申込書貼付用のシールは対応必須項目です
以降の記入欄については、※に記載の注意事項をご確認のうえ、ご記入をお願いします

株式会社シンテスト サイエンス・ラボ

ろ紙尿中CMV検出検査 申込書

本検査サービスの利用規約を読み、趣旨を了解しましたので検査を申し込みます。

施設情報

施設コード
施設名が
入ります

必須　登録事項

右の枠内に、専用ろ紙尿採取セットに付属している「申込書貼付用」のシールを貼付してください。	貼付

任意　記載事項

以下の記入欄には、報告時に添えてほしい情報のみ任意でご記載ください。
報告時に添える必要のない項目は、空欄のままご提出ください。

※手書き文字を機械で自動認識取込し、報告書等を作成しますので、枠内からはみ出さないように　丁寧なご記載をお願い致します。
また、大変恐れ入りますが、誤認識されてしまった文字に関しまして、修正は受け付けることができませんのでご了承ください。

記入欄

産婦氏名（カタカナ）	※左詰め、カタカナのみでご記入ください。氏と名の間を1マス空けてください。半濁点及び濁点付きの場合でも1マスに記入してください。 ス ズ キ　キ ョ ウ コ
出生日	日付記入例）2022 年 04 月 01 日 2 0 2 2 年 0 4 月 0 1 日
採尿日	日付記入例）2022 年 04 月 03 日 2 0 2 2 年 0 4 月 0 3 日
ID（カルテNo./患者ID等）	※左詰めでご記入ください。 ※アルファベット（大文字）、数字、一部記号（-（ハイフン）、+（プラス）、/（スラッシュ））のみの対応となります。 Z - 1 2 3
メモ（カタカナのみ）	※双子、三つ子など多胎児の場合で、区別が必要な場合などにご記載ください。 ※左詰め、カタカナのみでご記入ください。 オ ト ウ ト

記入欄　報告時に添える必要のない項目は、空欄のままご提出ください。

産婦氏名（カタカナ）	※左詰め、カタカナのみでご記入ください。氏と名の間を1マス空けてください。半濁点及び濁点付きの場合でも1マスに記入してください。
出生日	日付記入例）2022 年 04 月 01 日 2 0 年 月 日
採尿日	日付記入例）2022 年 04 月 03 日 2 0 年 月 日
ID（カルテNo./患者ID等）	※左詰めでご記入ください。 ※アルファベット（大文字）、数字、一部記号（-（ハイフン）、+（プラス）、/（スラッシュ））のみの対応となります。
メモ（カタカナのみ）	※双子、三つ子など多胎児の場合で、区別が必要な場合などにご記載ください。 ※左詰め、カタカナのみでご記入ください。

◎　検体ラベル

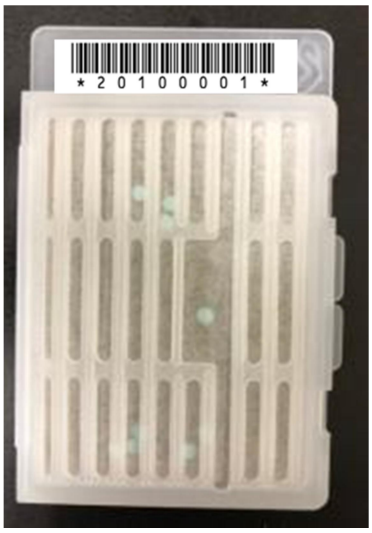
◆　血液，母乳

様式は問いませんが、下記の事項を記載して検体容器に貼付してください。
検体受付時『オンラインオーダーシステム』の情報と照合するため、イ．ロ．のいずれか、または両方を必ず記載してください。

イ．検体番号（患者 ID、カルテ番号等）
ロ．氏名
ハ．性別
ニ．年齢
ホ．検体の種類
ヘ．検体採取年月日
ト．検査依頼項目

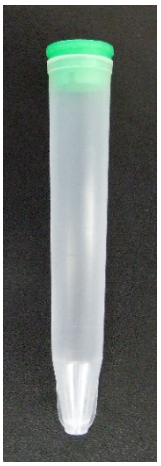
◆　ろ紙尿

専用のろ紙尿採取セットに付属する乾燥ケースに予め貼付されております。
こちらのバーコードラベルを用いて 検査を実施致しますので、 ラベルを剥がしたり 上から別のラベルを貼付したりすることのないように、お願いいたします。



◎　検体容器及び検体送付方法

◆　検体容器（血液，母乳）



【抗GM１ｌｇG抗体・抗GQ１ｂｌｇG抗体検査，
　抗トリコスポロン・アサヒ抗体検査，ＳＣＣＡ２検査】
血液を血清分離後、汎用の樹脂製容器に移し、凍結してください。

【HMGB1 検査，ペリオスチン検査，ペリオスチンモノマー 検査】
血液を血清または血漿分離後、汎用の樹脂製容器に移し、凍結してください。
他の材料は、汎用の樹脂製容器に採取し、凍結してください

【プロテインＳ　比活性 検査】
血液をクエン酸血漿分離後、汎用の樹脂製容器に移し、凍結してください。

【母乳亜鉛検査】
母乳を亜鉛汚染されていない樹脂製容器に採取し、凍結してください。

◆　検体容器（ろ紙尿）

【ろ紙尿中 CMV 検出検査】
採尿デバイスから採尿シートを取り出し、採尿シートのみ上記の乾燥ケースに入れ、よく乾燥させてください。

◆　検体送付方法（血液，母乳）

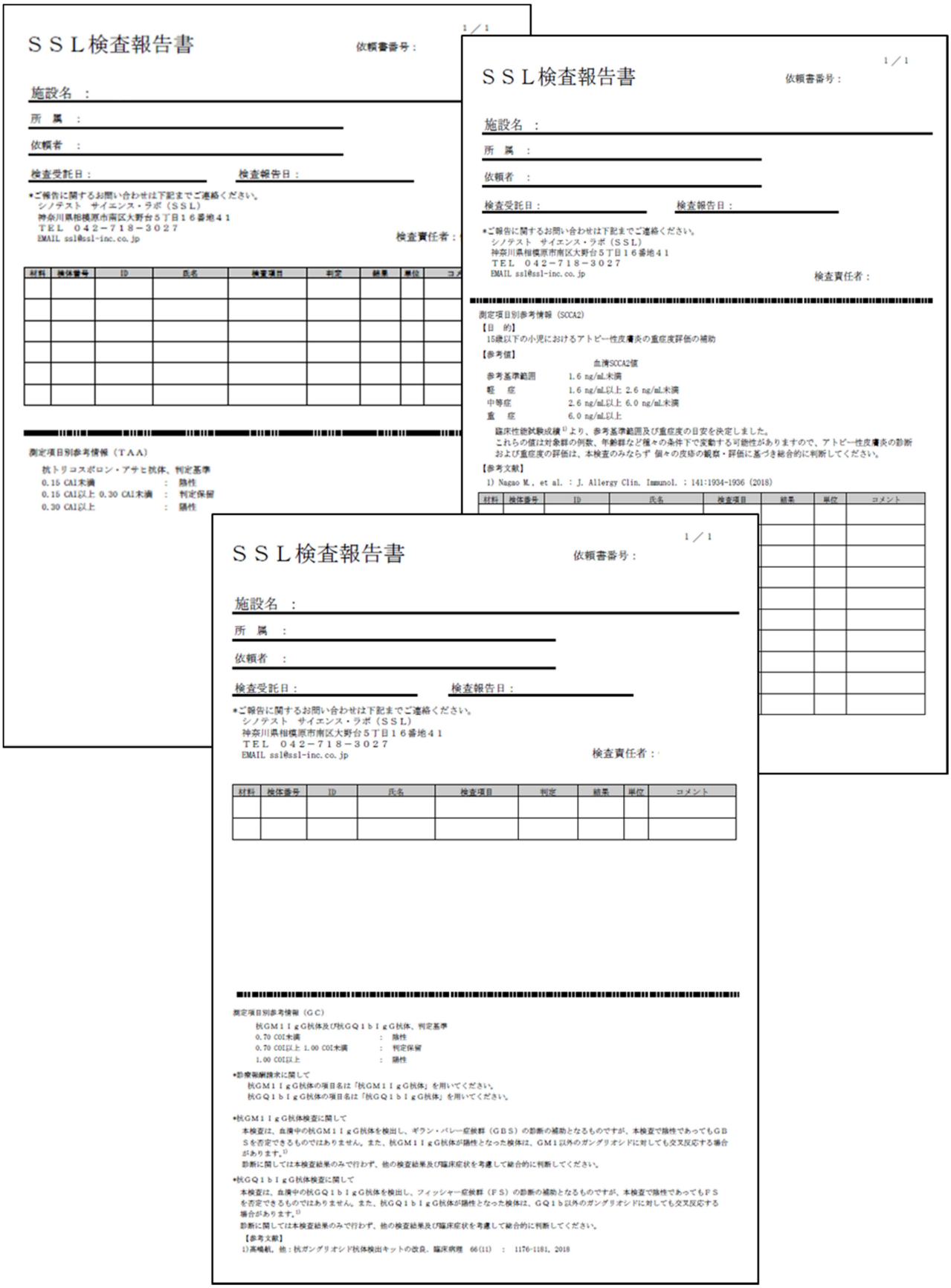
凍結した検体を堅牢な容器にドライアイス（保冷剤）と共に入れ、検体保存状態（冷凍）を維持してＳＳＬまでご送付ください（送付先は表紙に記載してありますのでご参照ください）。
休日（土・日曜日、祝祭日）は、検体の受取ができないため、検体送付時にご注意ください。
検体の送料（送付及び返却）は、お客様ご負担（元払い）となっております。

◆　検体送付方法（ろ紙尿）

乾燥ケースをビニール袋に入れ、ろ紙尿採取セットに付属する 専用の郵送用封筒にて郵送ください。
封筒は料金受取人払となっておりますので、郵送代は弊社負担となります。
検体の返却は承っておりません。ご了承ください。

◎　報告書の様式

◆ 様式例（免疫学的検査，血液学的検査，生化学的検査）



ＳＳＬ検査報告書　　依頼書番号：

施設名　：

所　属　：

依頼者　：

検査受託日：　　検査報告日：

*ご報告に関するお問い合わせは下記までご連絡ください。
シノテスト　サイエンス・ラボ（ＳＳＬ）
神奈川県相模原市南区大野台５丁目１６番地４１
ＴＥＬ　０４２－７１８－３０２７
EMAIL ssl@ssl-inc.co.jp

検査責任者：

材料	検体番号	ID	氏名	検査項目	判定	結果	単位	コメント

測定項目別参考情報（ＴＡＡ）

抗トリコスポロン・アサヒ抗体、判定基準
0.15 CAI未満　：陰性
0.15 CAI以上 0.30 CAI未満　：判定保留
0.30 CAI以上　：陽性

測定項目別参考情報（SCCA2）

【目　的】
15歳以下の小児におけるアトピー性皮膚炎の重症度評価の補助

【参考値】

	血清SCCA2値
参考基準範囲	1.6 ng/mL未満
軽　症	1.6 ng/mL以上 2.6 ng/mL未満
中等症	2.6 ng/mL以上 6.0 ng/mL未満
重　症	6.0 ng/mL以上

臨床性能試験成績[1]より、参考基準範囲及び重症度の目安を決定しました。
これらの値は対象群の例数、年齢群など種々の条件下で変動する可能性がありますので、アトピー性皮膚炎の診断および重症度の評価は、本検査のみならず 個々の皮疹の観察・評価に基づき総合的に判断してください。

【参考文献】
1) Nagao M., et al. : J. Allergy Clin. Immunol. : 141:1934-1936 (2018)

測定項目別参考情報（ＧＣ）

抗GM１ｉｇG抗体及び抗GQ１ｂｉｇG抗体、判定基準
0.70 COI未満　：陰性
0.70 COI以上 1.00 COI未満　：判定保留
1.00 COI以上　：陽性

*診療報酬請求に関して
抗GM１ｉｇG抗体の項目名は「抗GM１ｉｇG抗体」を用いてください。
抗GQ１ｂｉｇG抗体の項目名は「抗GQ１ｂｉｇG抗体」を用いてください。

*抗GM１ｉｇG抗体検査に関して
本検査は、血清中の抗GM１ｉｇG抗体を検出し、ギラン・バレー症候群（ＧＢＳ）の診断の補助となるものですが、本検査で陰性であってもＧＢＳを否定できるものではありません。また、抗GM１ｉｇG抗体が陽性となった検体は、GM１以外のガングリオシドに対しても交叉反応する場合があります。[1]
診断に関しては本検査結果のみで行わず、他の検査結果及び臨床症状を考慮して総合的に判断してください。

*抗GQ１ｂｉｇG抗体検査に関して
本検査は、血清中の抗GQ１ｂｉｇG抗体を検出し、フィッシャー症候群（ＦＳ）の診断の補助となるものですが、本検査で陰性であってもＦＳを否定できるものではありません。また、抗GQ１ｂｉｇG抗体が陽性となった検体は、GQ１ｂ以外のガングリオシドに対しても交叉反応する場合があります。[1]
診断に関しては本検査結果のみで行わず、他の検査結果及び臨床症状を考慮して総合的に判断してください。

【参考文献】
1)高嶋航，他：抗ガングリオシド抗体検出キットの改良．臨床病理　66(11)　：　1176-1181，2018

◆ 様式例（遺伝子関連・染色体検査）

この度の ろ紙尿中CMV検出検査の結果を次の通りご報告いたします。

ろ紙尿中 CMV 検出検査　結果報告書

登録コード	
氏　　名	
生年月日	
採 尿 日	
検 査 日	
I D	
メ　　モ	
検査結果	
備　　考	

株式会社シノテスト サイエンス・ラボ
〒252-0331
神奈川県相模原市南区大野台5-16-41

（医療機関用）

株式会社シノテスト サイエンス・ラボ
〒252-0331
神奈川県相模原市南区大野台5-16-41

※申込書の手書き文字は、機械が読み込んで認識／登録しますので、文字が誤認識されることがございます。
その点、ご了承くださいますようお願い申し上げます。
もし、左側の結果報告書の記載内容に誤りがあった場合、必要であれば、こちら側の用紙に手書きで正しい登録内容をご記載頂き、報告書としてご活用ください。

ろ紙尿中 CMV 検出検査　結果報告書

登録コード	
氏　　名	
生年月日	
採 尿 日	
検 査 日	
I D	
メ　　モ	
検査結果	
備　　考	

株式会社シノテスト サイエンス・ラボ
〒252-0331
神奈川県相模原市南区大野台5-16-41

（医療機関用）

株式会社シノテスト サイエンス・ラボ
〒252-0331
神奈川県相模原市南区大野台5-16-41

ろ紙尿中 CMV 検出検査　結果報告書

登録コード	
氏　　名	
検 査 日	
検査結果	
備　　考	

株式会社シノテスト サイエンス・ラボ
〒252-0331
神奈川県相模原市南区大野台5-16-41

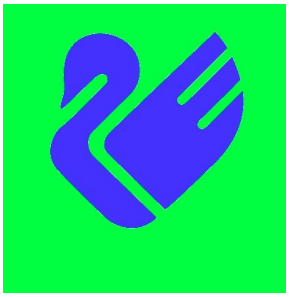
（保護者用）

ろ紙尿中 CMV 検出検査　結果報告書

登録コード	
氏　　名	
検 査 日	
検査結果	
備　　考	

株式会社シノテスト サイエンス・ラボ
〒252-0331
神奈川県相模原市南区大野台5-16-41

（保護者用）



株式会社シノテストサイエンス・ラボ